

懐かしい風景の残るまち・ひよし

温泉故郷

新知

H
I
Y
O
S
H
I

KYOTO

Information



日吉観光案内

●「懐かしい」と想う心の故郷

日吉

懐かしい風景と新しい癒しの空間

日吉は、京都府のちょうど真ん中、丹波高原の東端にあります。

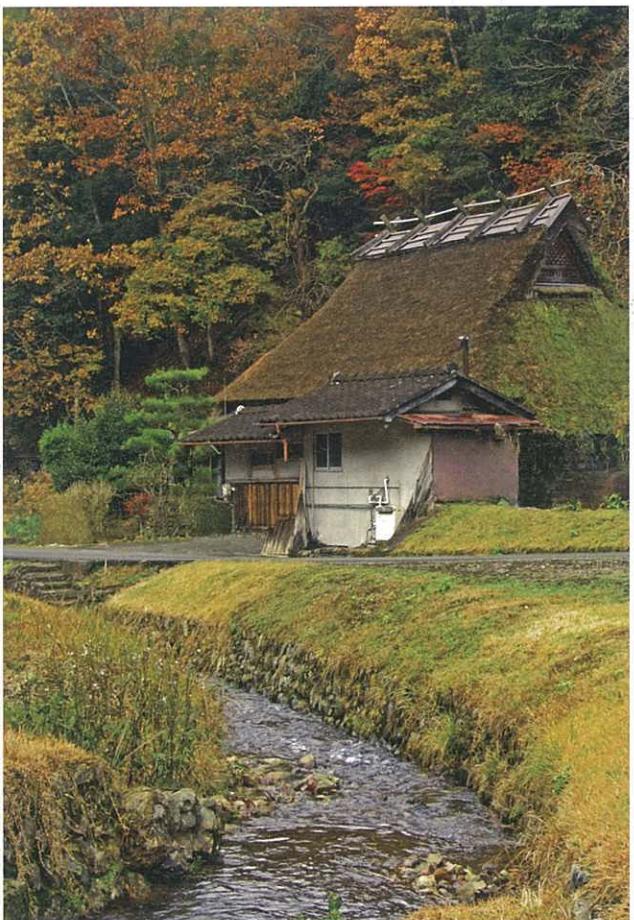
緑の山や清流を背景に、山すそには民家が散在し豊かな実りを与えてくれる水田が広がり、かつては、多くの農山村で見られた懐かしい故郷・里山の風景を今なお残しているまちです。

そんなまちの中には、京阪神の水がめ「日吉ダム」や「スプリングスひよし（ひよし温泉）」、「府民の森ひよし」など、豊かな水とあふれる緑に触れ合える自然を生かした新しい癒しの空間があります。

「懐かしさ」と「新しさ」が調和したまち、それが日吉です。



「故郷」
ふるさと



忘 れ か け て い た 自 然 の ぬ く も り

四季折々の素晴らしい自然の風景が日吉にあります

耳をすませてください。聞こえています。小鳥のさえずり、小川のせせらぎ、風の音。

見上げてください。青い空、緑の森。

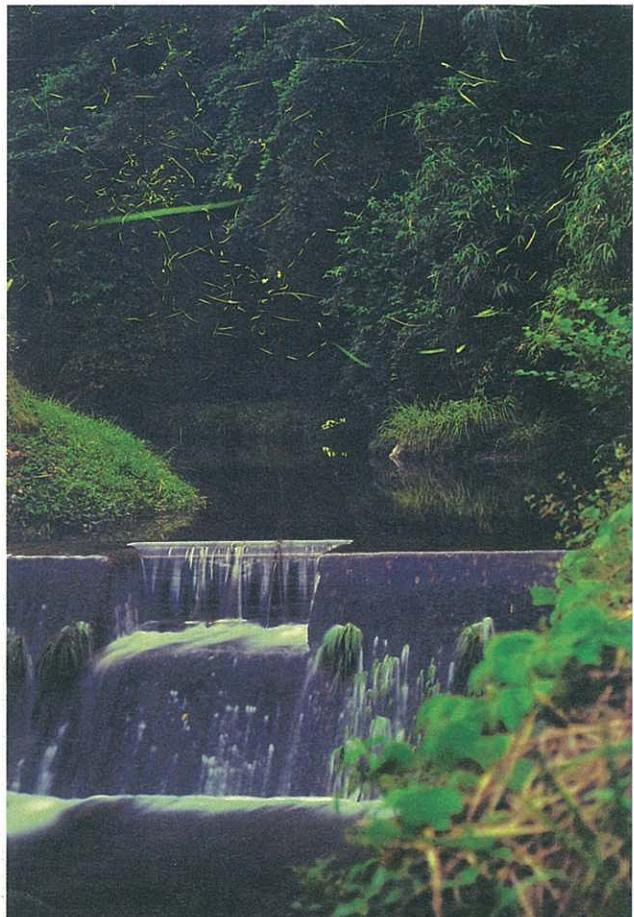
大きく息を吸ってみてください。胸いっぱいに幸せが広がります。

春は山菜、夏は森林浴、秋は紅葉、冬はうっすら雪化粧をした山々の美しさも見逃せません。天若湖周辺では、のびのびと野をかけるシカの群れを見かけます。忘れかけていた土のにおいやひぐらしの声。暗くなるまで野山をかけ回っていた子どもの頃にもどれるまち、それが日吉です。



「自
然
」

しぜん



かやぶきの屋根に舞いおりるメロディ

かやぶき音楽堂（迦陵頻窟）
からびんくつ

ピアノデュオ連弾で世界的に有名なザイラー夫妻のかやぶき音楽堂は、平成元年に、福井県の古いお寺を移築して建てられたもので、毎年初夏と秋にコンサートが開かれてています。

コンサートには、全国各地はもとより海外からも聴衆が訪れ、夫妻が奏でるデュオの音色に魅了されています。

また、ザイラー夫妻は日吉に田んぼを持ち、自分で田植えや稻刈りをされ、自称「田んぼニスト」と言われています。

＜お問い合わせ＞

かやぶき音楽堂コンサートテレホンサービス
TEL 075-781-9003
<http://home.att.ne.jp/sun/kayabuki/>



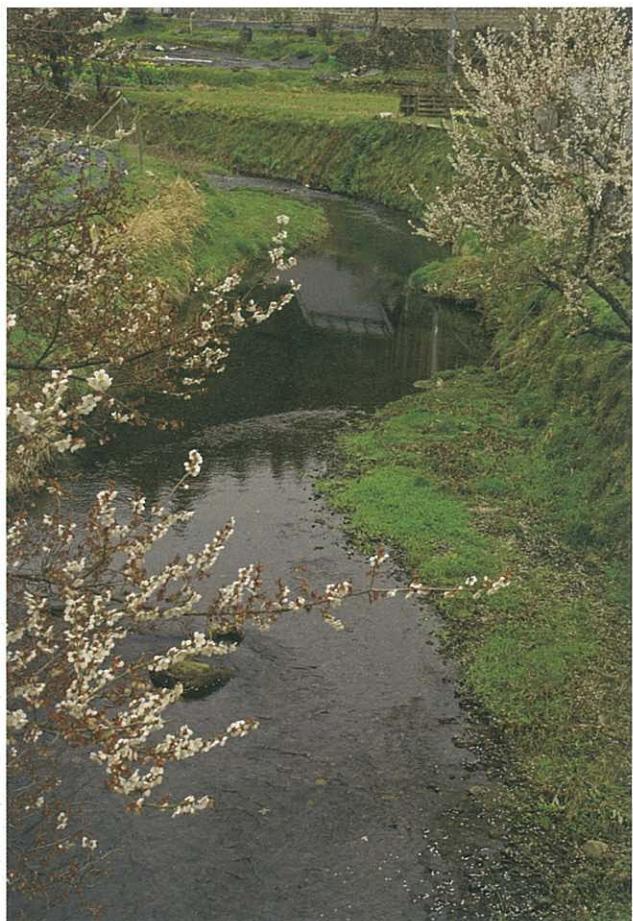
＜ザイラー夫妻＞

エルンスト.F.ザイラー氏は、ドイツ・ミュンヘン生まれ。ケルン音楽大学で4年間学んだ後、渡米してジュリアード音楽大学大学院卒業。在学中から世界各地でコンサート活動を展開。1961年、日本の大学の招きで来日。以来、ザルツブルクのモーツアルテウム音楽大学や、国内外の各大学のピアノ教授として、数多くの若く優れたピアニストを養成。

カズコ夫人は京都市生まれで、モーツアルテウム音楽院に留学。現在はザイラー氏とともにピアノデュオを組み、世界各地で活躍中。



「
奏
デュ
オ
」



●森の大切さ、面白さがわかる「府民の森ひよし」

さわやか気分ひとりじめ

自然の息吹をカラダに感じる

広大な森林公园「府民の森ひよし」は、自然とふれあいながら森を学ぶことのできる施設です。「森の広場」「観察の森」「体験の森」「散策の森」の4つのエリアから構成されています。

森の広場には、「森の資料館」「木工研修館」「メインキャビン・サブキャビン(宿泊棟)」「バーベキューなども楽しめる「キャンプ場」の他に、「郷土資料館」「サイクリングターミナル」もあります。

また、遊歩道・散策路は幾つかのコースに分かれており、野鳥のさえずりを聞きながら、森林浴を楽しむことができます。この度、約5,000m²規模のドッグランが完成しました。

<http://www.forest-hiyoshi.jp/>



●森の資料館・木工研修館・キャビン・キャンプ場
 TEL 72-1339

<http://www.pref.kyoto.jp/forest/sitasim/fumin-mori/fumin.htm>

森の資料館では、森の働きや大切さをジオラマや展示パネルでわかりやすく説明しており、木工教室や野鳥観察なども行なわれています。

広大な芝生広場や緑豊かな森林に囲まれたキャンプ場では、澄んだ青空の下でバーベキューなどアウトドアを満喫できます。

<キャンプ場>

テントテッキ10基、露地テントサイト10区画、トイレ・炊事棟完備

<キャビン>

メインキャビン1棟：定員25名、サブキャビン2棟：定員4名、調理器具類完備
 ※食事の提供はおこなっておりません。

●郷土資料館・サイクリングターミナル

TEL 72-1130

<http://www.be.city.nantan.kyoto.jp/hiyoshi-shiryokan/>

山と川の恵みを受けて育まれてきた日吉の歴史や民俗資料を展示紹介するとともに、日吉ダム水没地域から移築されたかやぶき民家（北山型民家）が復原されています。

また、レンタサイクルで日吉ダム周回道路のサイクリングも楽しんでいただけます。



「森もり」



●歴史に育まれた日吉の魅力



●田原の御田



●牧山の松明行事



●田原のカッコスリ



●日吉神社（馬馳け）



●笛吹神社



●玉岩地蔵堂

●田原の御田（多治神社） 国重要無形民俗文化財指定

毎年5月3日、田原の多治神社で、「御田」と呼ばれる民俗芸能が奉納されます。御田は、作太郎・作次郎と呼ぶ立人二人が中心になり、種漬けから稻刈りまでの稻作の過程を狂言風に演じるもので、また、田植えをはや囃す田植歌は中世歌謡の雰囲気を残すなど芸能としての御田を代表するものです。

●牧山の松明行事（普門院）

毎年8月24日の夜、西牧山の普門院観音堂で松明行事が行なわれます。この行事は、北山から丹波にかけて広く行なわれていた万灯籠と愛宕信仰が習合した火祭りです。松明は、扇形に組み立てた大松明と松割木を束ねただけの添松明、枝を括った竹に松明12個をつけた小松明の三種類があり、松明がよく燃える年は豊作になると言われています。

●田原のカッコスリ（多治神社）

毎年10月中旬、田原の多治神社で行なわれる秋祭りに、「カッコスリ」と呼ばれる民俗芸能が奉納されます。カッコスリは、4人の稚児の周りをかっこ（羯鼓）を手に持ったカッコスリが、笛や締め太鼓とサンヤレの囃子にあわせて踊るもので、中世後期に流行した風流囃子物を今に伝えていきます。

●日吉神社の馬馳け（日吉神社）

毎年10月第3日曜日、胡麻日吉神社の秋祭りに「馬馳け」と呼ばれる流鏑馬（やぶさめ）が奉納されます。祭りの早朝、祭事の主役となる馬場量、神馬、騎手、射手、矢取りがみそぎを済ませ、八幡宮など地区内の聖地を巡拝します。

巡拝を終えると、馬場量の手で清められた馬場を三騎が駆け、3つの的を射る所作を行ないます。射手が放った矢を矢取りが拾い集め、矢を神前に供えます。

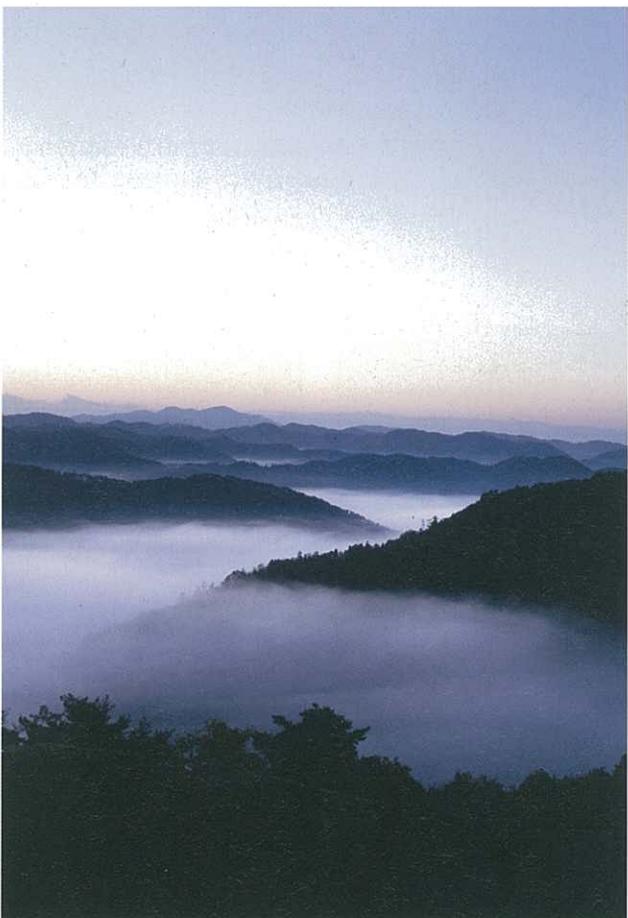
●笛吹神社の大杉

木住の笛吹神社のご神木とされる杉の巨木は、幹周6.39m、樹高46mで当町最大の巨木で、京都府200選に選ばれています。大杉のある笛吹神社は、本殿、拝殿のほか神水池と伝えられる井戸が境内にあり、本殿前の石燈籠には「笛吹大明神」と刻まれています。

●玉岩地蔵堂・海老坂峠

「海老坂峠」は京都と若狭を結ぶ若狭街道の一つで、「鯖街道」とも呼ばれていました。この峠には、石造地蔵菩薩を本尊とする玉岩地蔵堂があり、街道を往来する人々を見守ってきました。本尊の地蔵菩薩は、若狭の八百比丘尼が背負って諸国行脚を終え、この地で休憩した際に、どうしたことか動かなくなり、そのまま安置されたものと伝えられています。玉岩地蔵は、延命子安地蔵として広く知られており、秋の彼岸の法要には多くの参拝者が訪れます。

「伝統」



日吉には、

民俗芸能や仏教美術など貴重な文化遺産が

寺社や地域に数多く残され、

先人たちによって大切に受け継がれてきました。

●京阪神100万人の水がめ日吉ダム（天若湖）

甲子園70倍!! 東京ドーム53杯?

地域に開かれたダム

日吉ダムは平成5年に“地域に開かれたダム第1号”として指定され、淀川・桂川流域の治水と京阪神への利水を兼ね備えた多目的ダムとして平成10年3月に完成しました。ダム湖（天若湖）の貯水容量は6,600万立方メートル。といつても余りにも大きな数字なのでピンと来ませんが、例えるとその広さは甲子園球場70倍、水量は東京ドーム53杯分の水を貯える巨大な人造湖です。

湖にはコイ、フナ、ワカサギ、ウナギ、ニジマスなどの淡水魚が放流され、スポーツフィッシングを中心とした数多くの釣り人が訪れます。また、インフォギャラリー（堤体内部の見学：要予約）や湖畔にあるビズターセンターでダムの仕組みなどが詳しく説明されています。

独立行政法人水資源機構日吉ダム管理所 TEL 72-0171

ビズターセンター TEL 72-0759

インフォギャラリー TEL 72-0171

<http://www.water.go.jp/kansai/hiyoshi/>



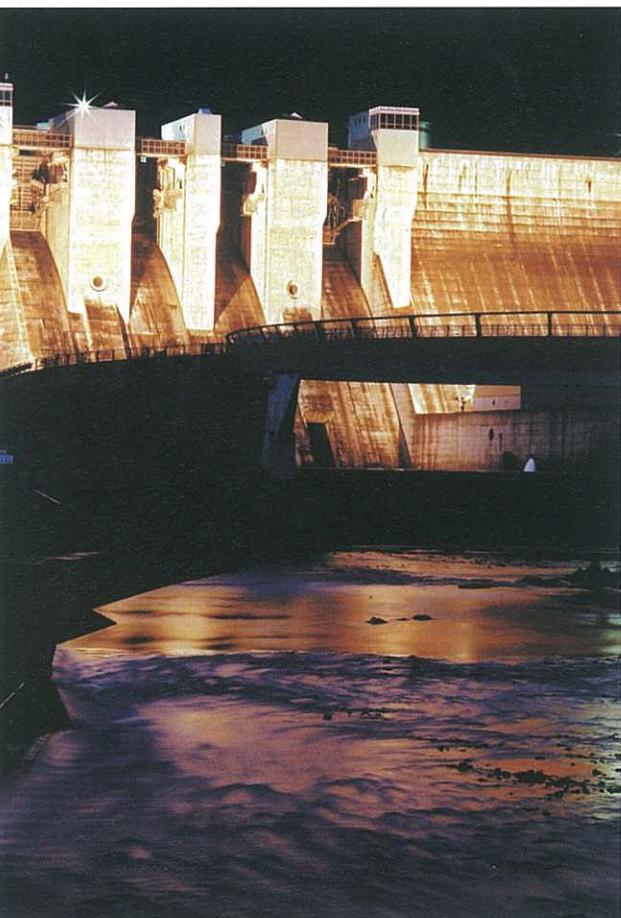
大堰川漁業協同組合 TEL 72-1178

13



日吉レンタルボートサービス TEL 72-9101
<http://www.13.con.ne.jp/~hiyoshi/>

「潤」
うるおい



●天然温泉・室内温水プールと広大な芝生の公園があるスプリングスひよし

心とカラダの癒しの新空間



スプリングスひよし（ひよし温泉）TEL 72-1526
<http://www.springss-hiyoshi.co.jp>

「日吉ダム」直下に湧く天然温泉「スプリングスひよし」は、ウェルカムプラザとリフレッシュプラザに分かれています。

ウェルカムプラザは、ダムを含めたエリア全体のゲートハウスとして位置づけられており、インフォメーションをはじめ、雄大な景観を楽しみながら日吉特産の食材を使った料理が楽しめるレストラン「桂川」と、日吉特産「日吉丸ぐらっせ」をはじめ、各種のお土産や、地元産新鮮やさい等（朝市）が魅力の特産品売店「里の市」があります。



リフレッシュプラザは、ひよし温泉と室内温水プール・体育館を併せ持つ健康増進施設で、連絡橋でウェルカムプラザと結ばれています。

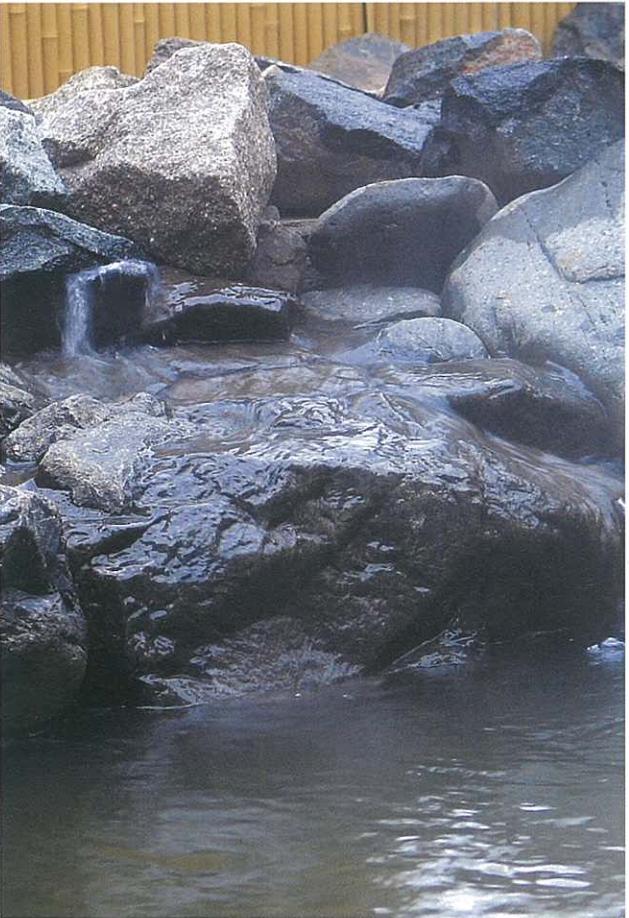
ひよし温泉は、「木の湯」「石の湯」が日替わりで楽しめ、泉質が自慢の源泉100%露天岩風呂、うたた寝の湯、マッサージルーム、フードコート等があり、多くの利用客で賑わっています。中でも、日本初上陸のシステムを導入した「アロマリヨウリュウサウナ（熱気浴）」は抜群の癒し効果で人気を博しています。

室内温水プールは、25m×4コースの本格プールをはじめ、リラックスプール、屋外ジャグジーを有し、各種スクールや健康プログラムを実施しています。

また、芝生広場には、3コースのグラウンドゴルフ場も整備され、家族が一日ゆったりと楽しめる複合的なリラクセーション施設となっています。

源 泉 名 ひよし温泉
 泉 質 ナトリウム塩化物泉（高張性弱アルカリ低温泉）
 泉 温 28.8度（源泉）
 掘 削 深 度 1,740m
 治用の適応症 神経痛・腰痛・関節痛・五十肩・慢性婦人病・慢性消化器病・冷え性・疲労回復・慢性皮膚病・うつみ・きりきず・やけど等

「くつねぎ」



●農ある暮らし



●貸農園

問い合わせ先 日吉町観光協会 TEL 72-0196

自分で安全・安心な野菜作りに挑戦しませんか。

- ・「畑郷ふれあい農園」
 - ・「大向なごみ農園」
- 両農園とも1区画約20平方メートルで、小農具の貸出しもあり、野菜作りがはじめての方でも気軽に楽しんでいただけます。

●朝市

問い合わせ先 日吉町観光協会 TEL 72-0196

・「青空市」

スプリングスひよしウェルカムプラザ駐車場で毎週土曜朝10時から12時まで

・「土曜市」

JR胡麻駅前で毎週土曜日朝9時から11時まで

- ・「ひよし朝市」(日吉の朝市グループによる合同朝市)
- スプリングスひよしウェルカムプラザで毎月第3日曜日朝10時から12時まで

地元の農家が丹精込めて育てられた新鮮な野菜をはじめとした農産物、農産加工品がお買い求めいただけます。日吉にお越しの際には、ぜひお立ち寄り下さい。

●農事組合法人グリーン日吉 TEL 72-1244

<http://www.kuromamenosato.jp/>

グリーン日吉では、地元特産品の加工・製造販売を行なっており、自然のおいしさをそのまま食卓にお届けいたします。こだわりのふるさとの味をぜひご賞味下さい。

また、商品は「スプリングスひよし・里の市」でもお買い求めいただけます。

「ぬぐみ」



「ひよし」

●スポーツ施設やのんびり過ごせる施設が充実



木もれ陽の宿(日吉山の家)



日吉荘



クラウンヒルズ京都ゴルフ倶楽部



ユースランド(胡麻総合運動広場)



南丹市日吉町生涯学習センター

●木もれ陽の宿(日吉山の家) TEL 72-0510

美しい緑の山並みに囲まれたのどかで温かみのある施設「日吉山の家」には、60人収容の本館、バンガロー4棟、コテージ1棟があり、約100名が宿泊できます。研修室・食堂・バー・ベキューガーデン・ミニグラウンドもあり、青少年に限らず、家族連れや団体客、スポーツ合宿などと広範囲に利用されています。また、小川で川遊びや四季折々の料理も魅力的です。初夏の夜には「ほたる」の幻想的な光が心をなごませてくれます。
<http://www.hiyoshi-yamanoie.com/>

●日吉荘 TEL 72-3467

杜と川にふれあう癒しの宿
 行楽・ビジネス旅館・軽食喫茶として人気の宿です。

●クラウンヒルズ京都ゴルフ倶楽部

TEL 72-1234

緩やかな丘陵地に広がる947,742m²の敷地に大胆かつ繊細に配されたコースレイアウト。緑豊かな自然とゴルフプレーにふさわしいロケーション。個性を浮き彫りにした景観美は、プレイだけでなくゴルファーの目と心を楽しませてくれるはずです。

●ユースランド(胡麻総合運動広場)

問い合わせ先: 南丹市教育委員会 教育振興係日吉
 TEL 68-0035

ユースランドには、「多目的グラウンド」「ユースホール(多目的集会施設)」「野外ステージ」「アーチェリー射場」「テニスコート」があり用途に応じて利用できます。

●鈴の山フィールドアーチェリー TEL 72-0001

アーチェリーには、「ターゲット競技」と「フィールド競技」があり、鈴の山では谷を越え緑の樹間をぬって矢を射るフィールドアーチェリーを楽しめます。

●南丹市日吉町生涯学習センター (遊youひよし)

TEL 72-3300

図書館、文化芸術活動の拠点となるホールや研修機能を備えた複合施設となっており、さまざまな用途に利用できます。

●明治国際医療大学・明治国際医療大学附属病院

TEL 72-1221

気軽に鍼灸医療が受けられる病院です。

<http://www.meiji-u.ac.jp/>



●日吉の自然が育むみのり



●壬生菜

京の伝統野菜の一つ、日吉のブランド商品「壬生菜」みずみずしくシャキシャキとした歯ごたえが特徴でサラダにしても鍋にしてもおいしいヘルシー野菜です。ビタミン、ミネラル、繊維質がいっぱい、特にビタミンCを多く含んでいます。



●丹波黒大豆

黒大豆は、昔から健やかさへの祈りを込めた縁起物として愛されてきました。なかでも、日吉の黒大豆「日吉丸」は、大粒で肉質もよく、朝霧が多く昼夜の温度差の大きい丹波高原得有の気候風土によって育ちます。

黒大豆に含まれる様々な成分は糖尿病・高血圧・肥満などの生活習慣病の予防に効果があるだけでなく、女性の美しさや若々しさを保つと注目を浴びています。

●小豆

「丹波大納言」として知られている丹波産の小豆は、粒が大きく色合いもよく、煮ても柔らかく香りと風味にすぐれています。



●しいたけ

高タンパク低カロリーで高血圧や糖尿病などを予防する働きがあると言われ注目を浴びています。風味豊かで肉質もあり、味は最高です。

●松茸

松茸と言えばやはり「丹波松茸」焼き松茸、すき焼き、松茸ご飯、吸い物にと秋の「味覚の王様」として人気です。

●栗

丹波産の栗は「丹波栗」として全国に知られています。丹波栗は大粒で味の良さが自慢です。



J A 京都日吉支店 TEL 72-0120

「みのり」



●日吉の自然が育む丹波の味わい



●丹波黒豆ぐらっせ

大粒の丹波黒大豆をシロップで炊き上げ、ブランデーをさかせた、しっとりとした食感と香りの風味豊かなお菓子です。全国優良ふるさと食品中央コンクールで農林水産大臣賞に輝いた銘菓です。



●日吉の恵 羊かんセット（黒豆・小豆・栗・みぶ菜）

丹波大納言小豆をベースに、黒大豆・栗・壬生菜を入れた四種類の羊かんです。中でも日吉だけにしかない「みぶ菜羊かん」は、細かく刻んだ壬生菜の緑色が白餡に映える美しい羊かんです。



●丹波黒豆みそ

丹波白大豆に丹波黒大豆をほどよくブレンドし、風味とコクを活かした味に仕上げています。日吉産米を使った米こうじも手作りで、添加物は一切使わず一年間かけて熟成させるなど、手間を惜しまずに丁寧につくられています。家庭用はもとより贈答品としても利用されています。また、風味はそのまで、ほうれん草・ごぼうに油揚げとわかめが入ったフリーズドライみそ汁があり、即席とは思えないお味です。



●黒豆茶

黒大豆を焙煎した、こくばしい香りにほのかな甘味のあるスッキリとした飲み心地のよい健康飲料「黒豆茶」。黒豆の成分は、高血圧など生活習慣病の予防に効果があるといわれております。

手軽に飲めるペットボトルとティーパックがあり、毎日の健康づくりに「黒豆茶」をおすすめします。



●京じゅれ

京・丹波の自然が生み出した新丹波黒の煮汁を使ったスイーツ「京じゅれ」は、新しい感覚のデザート。黒豆のさと、農事組合法人 グリーン日吉と京都ノートルダム女子大が共同開発しました。

「京じゅれ」のまったく新しい食感をぜひお試しください。

「味
覺
み
か
く



日吉を「よ」なく愛し
日吉にこだわった匠達



●伝えていきたいおふくろの味

(郷土料理の伝承)

美味しい空気・水・ひよしの恵を伝えたくて、味自慢のおかあちゃん達が真心こめて料理しました。野辺で摘んだヨモギを使ったお団子やお餅、昔ながらの風味豊かな笹ちまきや納豆餅など紹介しきれないふるさとの味がたくさんあります。このお母ちゃん達の腕にかかるれば、どんな食材も美味しいおふくろの味に大変身!!

●自然いっぱい!! ふるさとの贈りもの

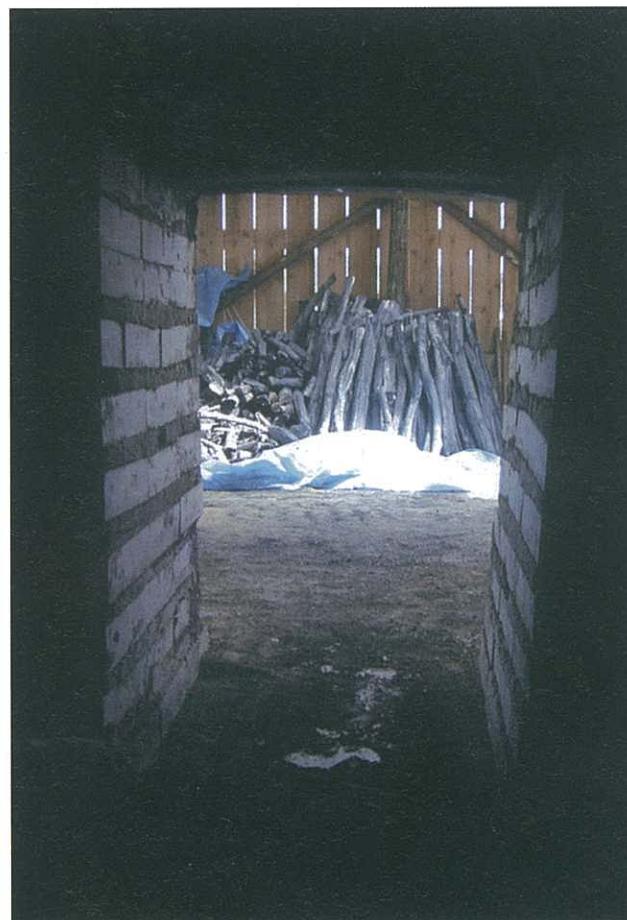
(日吉が誇る芸術作品)

日吉には、たくさんの芸術家が住んでおられます。緑の山々、小川のせせらぎが素晴らしい作品を創作するエネルギーになると言われています。こだわりの作品を紹介していきましょう。

- ・野山に自生する植物のつるを編み込んだおしゃれなリースやかごの「つる細工」
- ・ひよし窯は、昭和30年代頃まで日吉町四ツ谷周辺で行われていた炭を焼く技術を後世に伝えるため、伝統的な方法で再現した炭窯です
- ・自然に囲まれた中で、感性豊かに作られた陶芸家のぬくもり溢れる「陶芸作品」
- ・四季折々の日吉の草花を摘んで作った「押し花や草木染め」は、女性に大人気!!



「
極
きわめる
」



EVENT情報



●日吉ダムマラソン

4月末に、日吉ダム湖畔道路をコースとして開催されるマラソン大会。湖面からの心地よい風を感じ、新緑の日吉を楽しめるマラソン大会として全国から多くの選手が訪れます。本格的なハーフマラソン、10kmロードレースに加え、小さなお子様も気軽に参加できるファミリーレースもあり、本格的なランナーだけではなく、ご家族連れでも楽しめます。

●ひよし夏まつり

京都府下でも早い時期での花火大会をメインに、朝市や魚つかみ大会、ダム見学会、おもしろスポーツ体験など、子供から高齢者までが幅広く楽しめるサマーイベントです。

雄大な日吉ダムと山並みに囲まれた独特の空間で打ち上げられる花火が楽しめます。



●このパンフレットは、京都観光振興交付金を活用して作成したものです。

写真は日吉の観光写真コンクール出展作品を活用させていただきました。

作品者名（敬称略）

小園 深志 今井 隆 矢島 稔之 松本 保 松井 義郎 六嶋 喜間多
足立 等 加藤 進 村上 章郎 安川 進 南井 昭夫

<宿泊>

- 木もれ陽の宿（日吉山の家） TEL.72-0510 P.19
- 日吉荘 TEL.72-3467 P.19
- 府民の森ひよし（キャビン） TEL.72-1339 P.09

宿泊

<食事・喫茶>

- ①スプリングスひよし・「レストラン桂川」 TEL.72-1526 P.15
- ②日吉荘 TEL.72-3467 P.19
- ③くりくりぼうず TEL.74-0566
- ④郷の駅胡麻屋 TEL.74-0460
- ⑤ログテラスかぐら TEL.73-0670
- ⑥みやび TEL.74-0727
- ⑦ひとやすみ TEL.73-0308
- ⑧まるやま TEL.72-0037
- ⑨ゾンネ・ウント・グリュック 作野商店 TEL.74-0194
- ⑩おかげさんで TEL.73-0156
- ⑪Baker's Oven（ベーカーズオープン） TEL.72-0204

食事

<観光>

- スプリングスひよし TEL.72-1526 P.15
- 府民の森ひよし
- ・森の資料館、木工研修館、キャビン、キャンプ TEL.72-1339 P.09
- ・郷土資料館、サイクリングターミナル TEL.72-1130 P.09
- 日吉ダム
- ・ビジターセンター TEL.72-0759 P.13
- ・インフォギャラリー TEL.72-0171 P.13
- かやぶき音楽堂 (テレホンサービス) TEL.075-781-9003 P.07
- 日吉レンタルボートサービス TEL.72-9101 P.13
- 鈴の山フィールドアーチェリー TEL.72-0001 P.19
- クラウンヒルズ京都ゴルフ倶楽部 TEL.72-1234 P.19

観光

<ストア>

- ①ぴーぶる TEL.72-0081
- ②ストアーマルナカ TEL.72-0011
- ③中島商店 TEL.74-0027

ストア

<特産品販売>

- ①農事組合法人グリーン日吉 TEL.72-1244 P.17、P.23
- ②スプリングスひよし「里の市」 TEL.72-1526 P.15

特産

<朝市>

- ①青空市・ひよし朝市 ②土曜市 P.17

朝市

<貸農園>

- ①畠郷ふれあい農園 ②大向なごみ農園 P.17

貸農

<交通・タクシー>

- 吉田観光タクシー TEL.73-0089
- 谷タクシー TEL.74-0029
- JR日吉駅 TEL.72-0054
- バス事務所 TEL.72-0747

交通

<その他>

- 森林組合 TEL.72-0017
- 商工会 TEL.72-0224
- 日吉町しいたけ生産組合 TEL.73-0448
- 佐々江梅里グループ TEL.73-0121

その他

懐かしい風景の残るまち・ひよし

温泉故郷 知新
HIYOSHIGOTO KYOTO



<アクセス>

●電車ご利用の場合

JR京都駅から山陰本線(嵯峨野線)で約60分

JR大阪駅から約1時間30分

JR三ノ宮駅から約2時間

●お車の場合

京都市方面から京都縦貫自動車道(園部IC)で約60分

京都市方面から国道162号(京北方面)で約60分

大阪・池田方面から国道423号で約1時間30分

神戸市方面から舞鶴若狭自動車道(丹南篠山口IC)・

国道372号で約1時間40分



●日吉の観光についてのお問い合わせ先

日吉町観光協会

〒629-0341 京都府南丹市日吉町殿田尾崎8-1

TEL.0771-72-0196 (FAX兼)

<http://www.hiyoshikanko.com> E-mail:office@hiyoshikanko.com

なまずの話

天若の楽河に“明見”という地名があり、林業従事者の信仰が厚い“山の神”が祀られている。楽河では、この神様の使いはなまずであると言われている。なぜ、なまずが神様の使いなのか。一つの昔話が楽河に伝わっている。

楽河は、かつて“あくが”と呼ばれていたといわれる。そのあくがでは、山仕事に出てけがをする人が多く、何かのたたりではないかと恐れられていた。ある時、村の老人が川で魚つりをしていると、大きななまずが川上に向かって泳いでいくのが目にとまった。老人はそのなまずの大きさに驚いて、川原を伝ってあとを追いかけた。

すると、なまづは大きな桜の木のある対岸のこんもりとした林の付近まで来て、ぴたりと止まった。見ると、なまづの背中に、林の一隅から夕陽の反射した光が照らし出されていた。老人が、夕陽の光を反射している林の一隅に近寄ってみると、大きな桜の木のあたりに、小さな鏡があった。ここに夕陽が反射して、なまづの背中を照らし出していたのだ。

老人がそのことを村に帰って人々に話すと、「その鏡こそ山の神のご神体に違いない。そして、なまづは神様のお使いだったのだ」ということで意見が一致した。あくがの人々は祠を作って、鏡をご神体として祀った。なまづを獲らないようになったのは言うまでもない。そして、以後山でけがをする人もなくなり、“あくが”的な名は、いつ頃からか“楽河”に変わり、その名の通り楽しい土地になったという。

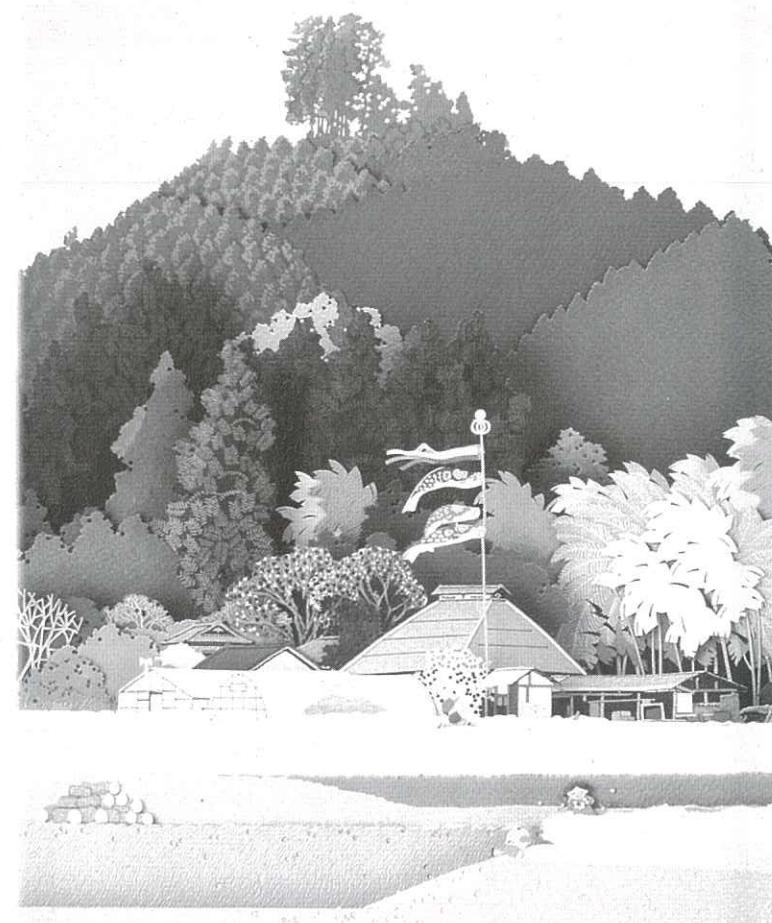
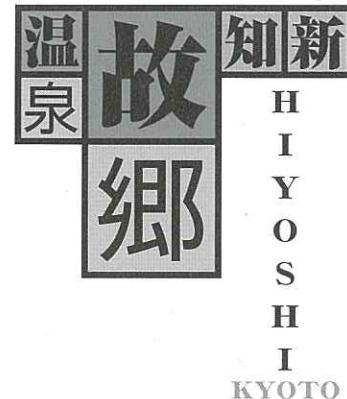


国師岩

ひよし

昔ばなし

懐かしい風景の残るまち・ひよし



谷あいが三角形状に広がる胡麻地区には、名の通った二体の地蔵がある。



郷愁を呼ぶ地蔵

野辺の地蔵には、懐かしさがある。忘れかけていた郷愁も……。

<首なし地蔵>

扇状に広がる日吉の中央の谷を五キロさかのぼれば木住の「首なし地蔵」だ。お地蔵さんには、名のとおり首がない。初めから首がなかったのか、それとも途中でなくなったものなのか、定かではない。目の病気に靈験あらたかで、供花が絶えることはない。

●伝説

木住の谷に老人と孫が二人で住んでいた。老人は体が弱く、若い働き手がないので、二人の暮らしは貧しかった。ある時、孫が目を患い、やがて盲目に。

老人は「首のないお地蔵を祭るよう」とのお告げを夢に見る。それに従うと、孫の目はたちまち見えるようになった、という。目の病気にご利益がある。

雨乞いの石

胡麻の塩貝地区に大將軍神社という神社がある。

この神社の祠の中に「雨乞いの石」が安置されている。日照りが続くと塩貝の人は集って、雨乞いの神事を行う。先ず、お千度を踏んで、この石を祠から取り出し、近くにある井戸に漬ける、それから下の広場で火をたき、お神酒をいただいて雨乞いをするのだ。

では、この石をどうして何処から持ってきたのか、どんな謂れがあるのか、これには次のような伝説がある。

●伝説

胡麻から角倉了以邸に奉公に上がった娘が居た。娘は同じ部屋の先輩の一人が、何時も夜中にスーと部屋を抜けだしていくのに気付いた。そして翌朝になると、かの先輩の履物が濡れているのだ。

ある夜、この不思議な行動を確かめようと、娘は彼女の後をつけた。彼女は保津川べりに佇むと、着物を脱ぎ捨て、下着姿になってザンブと川に飛び込むではないか。そこで、凝視する娘の見たものは、気持よげに泳ぎ廻る一匹の白蛇の姿であった。「あッ！」と思わず出かかった声を飲み込むと、その場から逃げ帰ろうとした。

と、「ちょっとお待ち！」という声。後にかの先輩が立っていた。「堪忍して！誰にも言いません。許して下さい。」娘は必死に歎願した。

「本当に誰にもしゃべらないなら許してあげましょう。しかし、もう角倉様の家からはおいとましましてほしい。」「約束を守るなら、見逃してあげます。今まで、あなたは私によく世話をしてくれました、形身にこの石をあげましょう。この石は『雨乞いの石』なのです。日照りの時はこれを井戸に漬けてお祈りすると雨に恵まれます。」

このように言うと朱に白い筋の入った石を娘に手渡した。

……そして姿を消した。

娘は約束を守って角倉邸を辞し胡麻に帰つて来た。かの『雨乞いの石』をしっかりととかえて……

夢窓国師と国師岩

黒染の衣に身を包み、巨岩に端座する禪僧の背を、折からの十六夜（いざよい）月が明るく照らし、眼下の淵のスキがそよぐ。

「……色即是空、空即是色、受想行識……」 経文は峠の山々に衍（こだましして）して、とり入れの進む平和な里に静かに流れゆく。時は元徳元（一三二九）年十月半ば。このところ毎夜豊作を祈念する如く、読経が続いている。

この僧こそ、南北朝時代の名僧とうたわれる夢窓国師その人の姿であった。

四ツ谷東谷にある巨岩、国師岩は、その昔夢窓国師が諸国行脚の途中、この岩上にあたって座禅を組んだと伝えられている。

そういえば、附近にユデン橋と名付けられている橋がある。ユデンとは、湯あみの湯田か、その昔、夢窓国師はじめ修驗者達がここで禊をしたであろうように、昭和初年ごろまでは行者講の禊の場ともなっていた。

現在の国師岩は小さくなっているが、以前は倍以上の大きさであったと言われ、府道園部平屋線が六尺幅から十二尺幅の道路に改修された時（約八十年前）、さく岩して、道路の側壁として使用されたそうである。



<油かけ地蔵>

油を頭からかけ、願いを込めると、どんな願いもかなう、と伝えられる。油のなかでも、ナタネ油を特に好まれるとも。昔から油をかけられ続けた顔面は真黒に汚れてしまい、目鼻立ちさえはっきりしない。かつては、この地蔵のそばに桜の大木があつて、遅咲きの美しい花をつけたという。



<袖なし地蔵>

二十粁ほどの花崗岩に、地蔵が薄く浮き彫りされている。頭の部分が割れて無い。袖なしという名の由来もはつきりしないが、物を失った時に願をかけると、かららず出てくるという。

以前は野ざらしだったが、この地区の信者らが小さいほこらを建てて、なかに袖なし地蔵を安置した。

